五省

一、至誠に悖るなかりしか
一、言行に恥ぢなかりしか
一、気力に欠くるなかりしか
一、努力に憾みなかりしか
一、不精に亘るなかりしか

五省会ニュース

発行所
特定医療法人五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人　西能 正一郎

五階ホールで「夏の病院コンサート」

心に染みた「ふるさと」の合唱

富山医薬大有志の杉谷の森室内合奏団が演奏

〝兎追いしかの山　小鮒釣りしかの川…〟唱歌「ふるさと」の合唱が、なごやかに流れる。口ずさむ患者さんたちの顔々が、故郷を懐しい人たちを思い浮かべている。目がうるんでいる。八月二十九日午後、病院五階ホールで開かれた「夏の病院コンサート」は、演奏の杉谷の森室内合奏団と、入院患者さんたちとの素晴らしいふれあいのひとときだった。

“兎追いしかの山……”の歌声が流れて

総勢二十人の同合奏団は富山医薬大の職員と学生の有志で組織されている。メンバーでバイオリンの当院内科、高田良久医師（同大学から派遣）らが、入院生活に潤いをと企画した。

会場は入院患者さんや、付き添いの家族、職員ら約百人でいっぱい。

丸山友裕氏（皮膚科助教授）の指揮で、モーツアルト、ヤナーチェック、バッハの美しい調べがひびき渡った。この間、高田医師が演奏曲と、チェロやフルートなど五つの楽器を紹介。

ふれあいを深めた合奏団のメンバー

かわって松本清氏（富大助教授、洗足学園魚津短大講師）の客演指揮で、ソプラノ歌手の松本明子さん（洗足学園魚津短大講師）がジーツインスキー作曲「ウィーン・我が夢の町」を歌った。引き続き唱歌メドレーに移り、「おぼろ月夜」「紅葉」「ふるさと」の三曲を熱唱した。

最後に、みんなで「ふるさと」を合唱した。おわっても、しばらくの間はうっとり、心に染みる余韻がただよっていた。

患者さんたちは口々に「生演奏の迫力に感激した」「歌っていたら、ほろっとしてきた」「このような催し物をつづけてほしい」など、〝ありがとう〟の拍手を、いつまでもおくっていた。

なお、このコンサートのもようが同夜、NHKと富山テレビのニュースで放映された。北日本新聞（三十一日付け）にも掲載され、取材した社会部の舟川陽子記者が後日の「記者ノート」で、「ふるさと」の詩が身に染みたと感想をのべている。

献血運動の知事表彰を受けて

医療関係者の協力の浸透を

西能 弘

七月二十七日、富山県赤十字血液センターで行われた平成五年度、献血運動富山県大会において、五省会・西能病院は、富山県知事感謝状の授与を受けました。

厚生大臣表彰の十団体に次ぐ六団体の中の一企業であります。

十数年に及ぶ、年二回の献血協力に対して、評価を頂いたものでありましょうが、日頃、医療に携っている医療組織としては、当然の協力であります。今回、表彰を受けた十六団体には意外と医療機関は当院のみで、その他の団体はほとんどが一般企業であり、一部、青年団や学校組織が含まれております。医療機関における、献血運動への認識の低さを思わせます。又、個人では、五十回以上の方々が受彰されておりますが、最高回数は四百五十回で、驚くべき協力者であります。

当院が登録して献血運動に協力をはじめましたのは十五年前で、私はその頃、富山青年会議所に入会し、約五年間在籍しました。その間、社会問題委員会の所属になったとき、献血登録制度の導入が委員会のテーマとなり、青年会議所で唯一の医者であった私は、多少のお手伝いをすることになり、日赤血液センターに出向いたり、街頭での登録呼掛けを行った記憶があります。

当然病院の職員にも協力をお願いし、大多数の方に献血登録をして頂きました。そして、この活動を互助会にお願いし継続されてきました。定期的な献血の他にも、一時的に血液が不足した際には緊急献血に応じたこともありましたが、病院という環境のためか、職員は快く対応してくれ、喜んでおります。

医療の進歩に伴い、救命治療が高度化するとともに、輸血を必要とする機会は、ますます増加する傾向にあります。当院でも、貧血の患者さんや手術の際に血液センターのお世話になることがしばしばであります。

慢性的に需要に追われ、又緊急時に対応すべく、血液の確保は終りのない戦いのようであります。民間の方々はもとより、医療関係者の協力をさらに浸透させる必要があります。又、今一度、献血登録制度のキャンペーンを広げることも有効でありましょう。

一方、輸血に際しても、その安全性は、100%ではなく、肝炎、エイズ等の感染症の危険性を含んでおります。私達、医療の現場をあずかる者の慎重で適切な適応の決定判断が重要であります。又、患者さんの家族や親族による安全な血液の提供をお願いすべきでもあります。最近では、全身状態の良好な方には、手術前に自分の血液を貯え、手術の際に使用する自己血輸血の方法が推奨されております。

より多くの人が献血に御協力をして頂くよう、医療現場の一人としてお願い致します。

楽しい安らぎのひと時に

西能院長の感謝のことば

―今回の演奏会は、単調な入院生活のなかで、患者さんにとって楽しい安らぎの一時になったと喜んでおります。杉谷の森室内合奏団の皆様と、高田先生に感謝を申し上げます。

入院中のアメニティの向上や患者さんサービスの徹底が叫ばれております。お願いして年に一、二回の定期演奏会を定着させていきたいです。また、このような催しを機会があれば開きたいと思っております。

進路学習の一端として

富山東部中の生徒が病院見学

富山市立東部中学校二年の男女生徒八人が八月二十四日、整形外科（男子）、内科（女子）＝写真＝の診察室と、リハビリテーションを見学した。

進路学習として、生徒たちが自主的に希望の職場を訪問し、実地を通して進路情報を収集し、将来に備えようというもの。

生徒たちは「案内してくださった方や、先生方が優しく、親切で、わかりやすく説明してくださったので、医学についての知識がいっそう深まりました。ありがとうございました」と、お礼の言葉をのべている。

なお、女生徒の感想を二面に掲載。

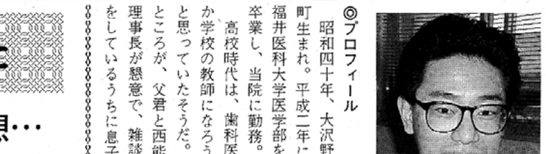
あすなろ

本当に今年は変な夏だった。低温、長雨、少ない日照時間で記録を作ったばかりではない。地震、台風、高潮が次々と全国を襲った。しかも日本だけでなく世界中が異常気象だったらしい▼おかげで、降るようなセミしぐれには、とうとう会わずじまいだった。いつもなら夏告げのヒグラシに始まり、アブラゼミ、ニイニイゼミ、チュチュゼミと微妙に北陸の夏の移り変わりを鳴いて、秋告げのツクツクボウシで虫の声にバトンタッチする。それが今年は、わずかの夏日を必死でとらえて鳴くのだから、いろんなセミの混声合唱になった▼土の中のセミの幼虫も季節感が狂ったに違いない。四～五年もかかってやっとはい出てきたが今夏は羽化の途中で力尽きて絶命しているのを沢山見た。そうこうしているうちに赤トンボが舞っていた。赤トンボといえば、今夏のコカイン疑惑で捕まった角川春樹社長の父上、俳人の源義さんは赤トンボの歌が大好きだった。よく口ずさんでいたが、故郷の水橋に懐しい思い出があったのかもしれない▼日本人はセミとトンボ好きだが欧米人にはセミの鳴き声はうるさい雑音にすぎない。トンボはあの大きい目がこわい、といったのは文学者のドナルド・キーンさんだった。そのくせ、日本人のいやがる蛾（ガ）が美しいと思うらしい▼大いなる冷夏の空の赤とんぼ（原裕）

うちの先生

明るく気さくなスポーツマン

整形外科　中田達也　医師



◎プロフィール

昭和四十年、大沢野町生まれ。平成二年に福井医科大学医学部を卒業し、当院に勤務。

高校時代は、歯科医か学校の教師になろうと思っていたそうだ。ところが、父君と西能理事長が懇意で、雑談をしているうちに息子のことが話題になり、理事長が「医学部に入り卒業後は西能病院へ」と提案。

それならばと、受験二か月前だったが方向転換、整形外科医を目指すことになったという。当院と深い機縁を持つ先生である。

職業も即断即決ならば結婚も、大学時代の恋人と卒業後すぐにゴールイン。すでに二歳と零歳の女の子のパパ。

事故やケガの患者さんは一刻一秒を争う場合も多く、とっさの判断と行動が要求される整形外科医にはうってつけの性格と、先輩医師の評判も上々。

テニス、スキー、弓道、水泳などが趣味というスポーツマンだが、今は仕事と休日の子守りで忙しく、とんとご無沙汰なのが、強いていえば悩みとか。

◎診察室拝見

先生は再来患者さんが主に担当なので、患者さんとも顔見知り。

「いつもより、ちょっと元気ないですね。疲れておられるのかな」

「久しかったね」

「この前、頭が痛いと言っとられたけど、その後どうですか」

一人ひとりの患者さんの前回の様子を覚えていて声をかける。そんなふうだから、患者さんの親しみも絶大で、なんでも気楽に話せるようだ。

「先生、まだ来んならんがけ」

「どうなるいね。明日また来んならんわ」

気の毒そうに励ます先生。また、別の患者さんは「すぐに薬を飲むの忘れしもて」と正直に報告。

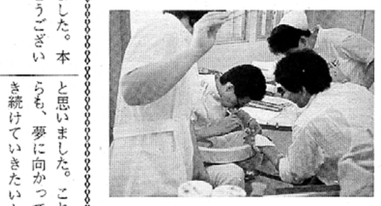
「骨を強くする薬だから、ずっと続けて飲まんと。時間がずれて飲んでも大丈夫だから、必ず飲んでください」

先生の口調は、叱るというよりも哀願調なので、患者さんも「必ず飲むようにするちゃ」と約束してくれる。

犬にかまれた青年が再来。治療しながら、「動物の口の中はバイ菌が多いから、ちゃんと手当てしないと。筋にバイ菌が入ると、指が動かなくなることもあるんですよ。当分、毎日来てくださいね」

毎日の消毒・治療がなぜ大切かを説明。

先生の診察の心構えは「もし、自分がこの患者さんだったら…」と立場を置き換えて考えるようにしているだけですよ」とニコニコ。気さくな青年医師である。



「痛みますがガマンして」とケガを消毒

病気の知識を深めた

病院を見学した女生徒の感想…

八月、病院を見学した富山市東部中学校二年の女生徒四人が「医者になりたい希望を強めた」と感想文を。（一面に関連記事）

たくさんの動物を救いたい

私は前にかっていた犬が病気で死んでしまい、じゅう医になろうと思いました。そして西能病院を見学する事になりました。

先生方がとても優しく接してくれ、病気に対する知識がいっそう深まりました。

これらの知識を将来に生かし、じゅう医になるようがんばり、たくさんの動物を救いたいと思います。

（石黒育子）

幼い子を助けてあげたい

私が、将来医者になりたいと思ったのは、開発途上国の幼い子が〝かぜ〟などの、日本では何でもない病気で死んでしまうということを知り、助けてあげたいと思ったからです。

西能病院では、看護部長さんをはじめ、先生方や、たくさんの方々のおかげで、医学についての知識を深めることができました。本当にありがとうございました。

（川岸景子）

一人でも多くの人を

私は、一人でも多くの人たちを救いたいので内科の医者になりたいです。医者になりたいという願望は、西能病院の先生方の姿を見て、ますます強くなりました。

それに、いろいろな知識をうえつけることができたので良かったです。ありがとうございました。

（竹内弘美）

先生が、とても優しかったから

私は将来眼科医になりたいです。なぜなら、小さいときに病院に行ったとき、そこの先生がとっても優しかったからです。だから、私も将来医師になりたいと思いました。これからも、夢に向かって歩き続けていきたいと思います。

最後になりましたが見学させて下さった先生方、看護婦さんの方々、本当にありがとうございました。とても勉強になりました。

（八田裕貴子）

医療、健康などのご意見を

五省会ニュースは地域の皆様の医療、健康、福祉、老人対策などについての、ご意見、ご要望をお待ちしています。

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

世界のエッグ王 2

イセグループ会長
イセ文化基金理事長
伊勢　彦信氏

常に前向きで発展

徹底したマニュアル化が成功の秘訣

必ずうまくいくと思っている

西能　私は福野の農家の息子でして、開業する時に、親父がやかましい男だったもんだから、金を一銭も出してくれなかったんです。

貯金もなく、自分だけの力と舌の先で借金しましてね。その後の転換期でも「あかん時は、またハダカになればいい」と思ってやってきました。

伊勢　親父が死んですぐに東京へ出ようと土地を買って準備してましたら、役場の町長さん達が心配して来られましてね。「お前わかっとんがか。ちょっこ健康診断すれば」「こんなに健康です」と言って…。（笑）

「いやあ、体じゃない。企業の健康診断だ」と言われました。私、そういう観念がない男なんです。

県から調べに来られて「この会社はもうつぶれてる。過大投資ですね。東京の土地を売り払ったらどうですか」と言われるんです。でも、私はいくら数字を並べられても、必ずうまくいくと思ってる。それで「ありがとう。養鶏の大農場化を非難され、国会に呼び出されても、自由競争の大切さを主張し続けた伊勢氏。消費者に新鮮で安い食品を供給するのが自分の仕事、という確固たる信念が、躍進するイセグループの原動力だ。できました。結果的にういう開き直りがあったからだと思うのですが、社長はどうですか。

伊勢　私は、ハダカになることがあろうとは、夢にも思わなかったです。

西能　そうですか。

伊勢　親父が死んでしまうまいったのは（笑）

西能　危機感をもたれたことはないんですか。

伊勢　今から振り返ってみると、いくつか「なんと危ない橋を渡ってきたか」と思いますが、その時は全然感じませんでした。

西能　そこらへんがすごいですね。

国会に呼び出されて…

伊勢　鈍感なんですよ。でも今思うと、一番暗い思いをしたのは中小養鶏業者と十年間やりあったことですね。

西能　ほお。

伊勢　あれは昭和五十三年でしたか、仙台で日本一大きな養鶏場をつくろうとしたんです。ところが、中小農家の人達が「独占されるんじゃないか」と心配になったんでしょうね。政府に抗議したんです。その頃、卵の価格を巡って生産調整の論議もありましてね。

それで、国会の農林水産委員会へ呼び出されまして…。

西能　そうでしたか。

伊勢　前の晩に、心配してくださった方々から「何を言われても、わかりません、知りませんと言っとけ」と、いろいろレクチャーを受けたんです。

ところが、国会の喚問の場では、激しいことを言われる人もおるでしょ。そこで、負けじとやったもんですちゃ。（笑）「安くて良い卵を消費者に安定供給するのがなぜ悪い。あんた達の考え方は間違っとる。自分のやり方こそ国のためになる」と。

結局は私の意見が通り、養鶏場の増設も認められたし、卵の自由価格も維持されたんですがね。

西能　すごい方ですねえ。

伊勢　いやあ、大変だったんですよ。反対した中小農家の人達があちこちで「伊勢を叩け」とやられるもんだから、それから十年間、なにかにつけやりにくくてやりにくくて…。

西能　ごく最近までですね。

伊勢　そうです。こっちも折り合いつける気がないもんで（笑）ずっと大ゲンカしてきました。

西能　大変でしたね。

伊勢　とても辛い思いをしましたが、それになってきています。ハンバーグ、オムレツ、おでんなどいろいろなものをつくってます。それからソバとかウドンの弁当も。

西能　ヘーエ、ソバの弁当ですか。

伊勢　小さなケースにソバ、天ぷら、汁が入っているものです。高崎の工場で一日八万食ほどつくっています。二十四時間稼動していて、八時間ごとにスーパーの店頭へ持っていくんです。今、四千軒に配達しています。この新しい配送システムがものすごく当たりまして、工場を三倍くらいに増やしたいと計画しています。

だけど、工場の建設が大変なんです。生メンなので、工場にバイ菌が入り込まないように、今の科学で可能な限りのつくりになっているんです。人の服装も目が出ているだけという厳重さです。

西能　発想が普通と違いますね。

伊勢　こんなごっついことをしている食品会社は、うちだけだそうですよ。なにしろ、昨日まで鶏に餌をやってた人間がやるんですから、素人でも問題を起こさないやり方を考えるわけです。（つづく）

ある日の通院バス

〝助かります〟と患者さんに大好評

当院では、昭和四十七年、県下で先がけて通院バスを運行。膝や腰などの痛みで通院する患者さん達から「ゆっくり落ち着いて乗り降りができるので安心です」と喜ばれています。

通院バスは日曜と祝日を除く毎日運行。市内コースと、婦中・長沢・金屋方面を走る第一コース、呉羽・中老田・北代・田刈屋方面の第二コースの三つのコースがあります。運転するのは、石倉喜一さん、田中行久さん、柿本善一さんの三人。

第一コースは七時五十分に病院を発車。利用される方は、バスが通る道に立っていて、バスがきたら手をあげて合図してもらうことになっています。

連星駅の近くで乗られた患者さんは「以前から、このバスが通るのを見ていたので、ケガをした時に迷わず西能さんへ駆け込んだんですよ」

顔見知りになった患者さん同士で、農作業の話などに花が咲きます。新しい人が乗車されると「どうしられたがけ」と声をかけたり、なごやかです。

病院につくと、送迎係の女性職員が、「おはようございます。気をつけて降りてくださいね」と、声をかけながら介助します。

第一コースのバスが今度は第二コースを走ります。送迎係が、待合室やリハビリ室、薬局をまわって、バスの発車を伝えます。

「ちょっと待ってて」ということも多く、全員の乗車を確認してから出発。

第一、第二コースとも、それぞれ二便出ていますが、第一コースの二便発が十時頃と早いこともあって、乗り遅れる人も…。

「診察が長びくと、間に合わないんです。第二コースのバスに乗って帰りに婦中まで送ってもらったこともあります。もう一便、増やしてもらいたいですね」という患者さんの声もあり、増便を計画中。

市内コースは、病院～富山駅～西町～病院間を三十分間で一巡、という行程ですが「市内の交通量が年々増え渋滞で時間が少しずつずれてくるのが悩みです」と石倉さん。

時間の変更も検討しているが、なかなか妙案が浮かばないそう。

それでも「運転手さんは明るくて親切。このバスがあるから通院も苦にならない」と、患者さんに喜ばれている通院バスです。

病院の玄関前に到着した市内コースの通院バス

◀手をあげて合図されると止まります

◀明るい車内

◀細心の注意で運転

仲良しさん

㊧中筋さん　㊨大田さん、

二階201号室の大田操さん（八一）＝富山市呉羽苑＝と、中筋ソトさん（七九）＝城端町＝は大の仲良し。

入院は大田さんの方が早く、中筋さんは百余日あと。初めて顔を合わせたときから何となく気があったという。

「どちらも、さっぱりしとるから」

二人とも足が不自由で、大田さんはシルバーカーを押し、中筋さんは車椅子を利用している。

それで、食事や、リハビリに出かけるときも、そして一日中ほとんど一緒だ。

「なんでも話し合って、助け合っとります」と姉さん格の大田さんがいえば、中筋さんは「二つ違いの妹の顔をして、つんだって出かけとります」。

県知事から感謝状

職員の集団献血

平成五年度献血運動推進富山県大会は七月二十七日、県赤十字血液センターで開かれ、献血に多大の貢献があった団体、個人が表彰された。

西能病院は県知事の感謝状（功労団体）を受賞、石倉喜一互助会会長と同会役員（福祉担当）の福岡恵美さんが表彰状を受けた。

互助会が中心となって登録した十五年前（登録前は昭和四十四年）から毎年二回、病院前にきた愛の献血車で職員献血を継続している。

（北日本新聞社提供）
▶表彰状を受ける石倉会長と福岡さん

より良いサービスを目指して

看護部管理職育成研修会

ほめ方・しかり方の訓練

看護部は七月から一年間の予定で毎月二回、看護管理職育成研修会を開いている。

中間管理者の管理能力の向上と、より良い看護サービスを目指す。

日テ育総営治内渋帰コ案す案ん も患ア須師テ育営業企画部長、伊藤雄治氏。

内容は、長所を伸ばす、短所を生かす、ほめ方・しかり方、失敗を生かす、上司離れに手を貸す、不平・不満は成長の原動力など。

のが目的。テーマによって各部署からも参加、一年を通して、メディアーク経営研究所所長、須磨忠昭氏が担当。講師は各分野のベテラン。

第四回（八月二十八日）についてみると、テーマは「よい部下の育て方」で、講師は、㈱電通関西支社、営業総務次長兼PR部長兼営業企画部長、伊藤雄治氏。

内容は、長所を伸ばす、短所を生かす、ほめ方・しかり方、失敗を生かす、上司離れに手を貸す、不平・不満は成長の原動力など。

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

素人でもやれる方法を

伊勢　仕事が、鶏に餌を与えて卵をうませるという自然の循環ですから、そういう意味では煩雑さが少なかったんでしょう。また、卵の消費がどんどん伸び盛りで、つくれば売れるという時代でしたし。

西能　しかし、社長の仕事は鶏に餌やって卵うませるだけじゃないんですから。（笑）

世界中に広げられて…。

伊勢　いやあ、細かいこと言えばいろいろございますよ。

昔、鶏は企業的にやってても二百～三百羽ぐらいで、鶏一羽一羽以外は気楽にやってきました。（笑）

西能　いやあ、大人（たいじん）なんだなあ。ちょっとやそっとでは動揺しないんですね。

でもうちの会社には、そんな専門家は一人もいませんからね。素人がやるにはどうすればいいか。カルシウムは週に一回、気温が何度以下なら窓をしめるなど、全部書き出しました。そうしたマニュアルを基準にすると、とても簡単でした。

また、その頃は千羽以上飼うと、悪い病気がおきて収拾がつかなくなると言われていました。そこで、ヒヨコを育てる農場でも二か月使って一か月は空けるというやり方で、ウイルスを敷地に残さないようにしたんです。

そうした単純なことを組み合わせてやっていたら、鶏とヒヨコがそれぞれ六万羽になって一日にうむ卵が四トン車でちょうど一杯。それを東京へ持っていくと無駄なく売れるという具合でした。

西能　すごいですね。

伊勢　十年くらい前は、従業員一人当たり一万羽でしたが、現在は三万羽、ヒヨコなら六万羽くらいを管理しています。

西能　へーエ、それは、それは。

伊勢　他の会社は真似できません。

西能　ケタはずれの方ですねエ。

伊勢　まだまだです。実は、マニュアルをつくる方法を習った時、一緒に勉強していたのがダイエーといったスーパー関係の人達ばかりでしてね。スーパーをやるんですか、と言われましたよ。（笑）

加工食品産業も大当たり

西能　最近、加工食品もやっていらっしゃると聞きましたが。

伊勢　はい。私の会社のとても大きな産業になってきています。ハンバーグ、オムレツ、おでんなどいろいろなものをつくってます。それからソバとかウドンの弁当も。

西能　ヘーエ、ソバの弁当ですか。

伊勢　小さなケースにソバ、天ぷら、汁が入っているものです。高崎の工場で一日八万食ほどつくっています。二十四時間稼動していて、八時間ごとにスーパーの店頭へ持っていくんです。今、四千軒に配達しています。この新しい配送システムがものすごく当たりまして、工場を三倍くらいに増やしたいと計画しています。

だけど、工場の建設が大変なんです。生メンなので、工場にバイ菌が入り込まないように、今の科学で可能な限りのつくりになっているんです。人の服装も目が出ているだけという厳重さです。

西能　発想が普通と違いますね。

伊勢　こんなごっついことをしている食品会社は、うちだけだそうですよ。なにしろ、昨日まで鶏に餌をやってた人間がやるんですから、素人でも問題を起こさないやり方を考えるわけです。（つづく）

「他の会社はうちの真似はできません」と伊勢氏（左）
「ケタはずれの方ですねエ」と西能理事長

より活性化を ④

第四回院内研究発表会から

「手術室看護の充実をめざして―看護マニュアルを作成して―」看護部、中材・手術室チーム六人、発表者金子昭典

手術室看護の充実をめざして

不安や、とまどいが軽減

介護手順をイラストなどで学習

手術室に出向してきた看護婦から、手術室看護についての不安や、とまどいの声がよく聞かれたので、手術室への出向看護婦十人、手術室勤務経験者六人の計十六人に問題点を聞いたところ、次の様な意見が大半を占めた。

①手術室内の備品、医療器機、物品などに不慣れであり、また薬品などの種類が多いため、とまどうことが多い。（八人）

②全身麻酔、腰椎麻酔などの介助を行う際、手順がよくわからず不安である。（十人）

③手術室の雰囲気になかなか慣れない。（八人）

これらのことを踏まえて、手術室内の備品、物品などの場所を明らかにするため、一枚の厚紙にマジックで色分けし、備品名、物品名を書き所在をはっきりさせた。厚紙は物品戸棚の近くの壁に掛けた。また、よく使用される物品名は赤枠とし、注意をひくようにした。

手術室看護マニュアル（全身麻酔、腰椎麻酔の麻酔介助手順）としては、以前からあった同マニュアルに、イラスト、図記号などを入れ、さらにわかりやすくなるように作成した。また、ファイルに入れ、一冊のマニュアル本として活用することにした。

その結果、つぎのような効果が確認できた。

全体的に協力看護婦が事前に学習することで、手順及び注意事項などを理解することができ、不安や、とまどいも軽減できた。

また、備品、薬品、物品などの配置表により、その所在が明らかになり、間接介助業務がスムーズに遂行できた。これからも問題意識を持ち、レベルアップに努めていきたい。

手術室の備品の点検　中央が金子看護士

病院だより

八月

一日＝富山市少年相撲大会（護国神社）に救護班。

四日＝山本看護部長が院内感染対策研修会（県看護協会主催）にパネリストで出席。

五日＝西能院長が富山市草島地区センターで「腰痛について」を講演。主催は富山市民健康センター。

理事長がシンポジストに

七日＝西能理事長が東京のダイヤモンドホテルで開かれた日本病院会の病院長、幹部職員セミナー「これからの病院経営」のシンポジストをつとめた。

十二日＝互助会が北海道南西沖地震の義援金五万五千三百九十円を県善意銀行に寄託。

二十六霊の物故者法要を

十五日＝この一年間に病院で死去された二十六霊の物故者法要を五階和室で営む。

二十一～二十二日＝富山市五福地区スポーツ少年団神通会主催の富山少年サッカー大会（富山大学、県立富山工業高校両グランド）に救護班。

二十六日＝西能理事長が富山市民プラザで「腰痛とのおつきあい」を講演。主催は富山市民大学学友会。

九月

七日＝山本看護部長が井波総合病院で「キラッと輝いていたい」を講演、同病院看護部の主催。

九日＝互助会がビーチバレーボール大会を五福小学校体育館で。

消防操法大会に七人が参加

十日＝第五回自衛消防隊消防操法大会（県消防学校グランド）に病院から屋内消火栓の部に男女各一チーム（三人一組）、消火器の部に女子一人の計七人が出場し消火技術を競い合った。（写真上）

ディズニーランドへ職員旅行

十一日～十三日、十八日～二十日、二十五日～二十七日＝職員旅行会が三班に分けて東京のディズニーランドへ。

老人福祉の手引 ⑭

自立の支援を目指す

県内には二十三カ所

〔老人保健施設〕

症状は安定期にあるが、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他の医療を要する老人を対象に入所サービス、在宅サービス（短期入所ケア、ディケア）を提供することで、その自立を支援し、家庭への復帰をめざす施設です。

対象は、病状安定期にあり、入院治療をする必要はないが、リハビリ、看護、介護を必要とする寝たきり老人等です。

サービス内容は、入所サービスでは療養に必要な看護、介護を中心とした医療ケア、日常生活サービス、家庭復帰のための機能回復訓練。在宅サービスでは在宅の寝たきり老人等のための短期入所ケア（入所サービスと同内容）、ディ・ケア。

費用は、食費、おむつ代、その他日常生活費等については、利用者負担（5～6万円程度）。寝たきり老人等が施設を利用した場合には、老人保健施設療養費が市町村から施設へ払い込まれます。

申し込みは、老人医療受給者証を提示し、施設と契約します。

富山県内には、富山市十一カ所、高岡市二カ所、魚津市、滑川市、黒部市、氷見市、小矢部市、新湊市、八尾町、立山町、庄川町、婦中町に各一カ所あります。

（医療ソーシャルワーカー・中井香織）

診療体制のご案内

休日診療

（日曜日・祝日）

午前8時30分～午後5時

- 整形外科
- 内科
- リハビリテーション科

平日診療

（月曜日～土曜日）

整形外科
午前 8：30～12：00
午後 4：00～7：00

スポーツ外来
火・土曜日
午後 4：00～7：00

人間ドック
日帰りコース・1泊2日コース（水・金曜日）
2泊3日コース・3泊4日コース
〈申込先〉
健康事業部　8：30～17：00

内科
午前 8：30～12：00
午後 3：00～5：00
（火・金曜日は7：00）

糖尿病外来
金曜日
午前 9：00～12：00

泌尿器科外来
土曜日
午後 1：30～5：00

在宅看護・診療
木・金曜日
午後 1：30～4：00

リハビリテーション科
午前 8：30～12：00
午後 1：30～7：00

循環器外来
月曜日
午前 9：00～12：00

神経内科外来
木曜日
午後 2：00～5：00

栄養指導（糖尿病・ウエイト・コントロール）
月曜日～土曜日
午前 10：00～11：00

通院バスのご案内

月曜～土曜　午前運行
（日曜、祝日は休み）
○印は常時停留所、その他、臨時停車します。

①富山駅・西町コース：丸の内→西能病院→富山大橋→丸の内→新富町○→西町→桜橋通り→富山駅→新富町○

②婦中・長沢・金屋方面：金屋→西能病院→神明→羽根→鵜坂農協→速星駅→平岡→古里郵便局→友坂口

③呉羽・中老田・北代・田刈屋方面：畑中→西能病院→吉作→花ノ木→中老田→女子短大→呉羽駅→北代→石坂